

Simco-Ion 静電気除去装置 スタティックバー MF - 4N

取扱説明書



⚠️ ご注意

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使い下さい。

この取扱説明書の巻末が保証書になっております。内容をよくご確認の上、大切に保存して下さい。

ご使用前に

⊘ 禁止

本製品は、**防爆構造ではありません**。溶剤・可燃性ガス等が存在する「危険場所」ではご使用になれません。

⚠️ ⚡️ ご注意

- ・本製品は、高電圧を使用した「静電気除去装置」です。本製品を正しくお使い頂くために、必ずこの「取扱説明書」をよくお読み下さい。
- ・本製品は、電気製品です。また本製品は防塵構造ではありません。水・油・溶剤・微粉末等が装置にかかりますと、本製品を著しく損傷させます。特に、高電圧を使用していますので、「結露」にご注意下さい。
- ・本製品を酸・アルカリ・塩素ガス等の腐食性ガスのある場所に持ち込まないで下さい。また、そのような場所では使用しないで下さい。
- ・本製品はクリーンな環境でご使用頂くことを前提として設計されておりますが、清浄度を保証するものではありません。また、清浄な製品であることを保証しておりません。ご使用前に本製品を清掃して、クリーンルーム・クリーンブース内等へお持ち込み下さい。
- ・本製品は、この「取扱説明書」に記載された方法で設置・ご使用下さい。間違った取り付け方法は思わぬ事故を招くことがあります。取り付け、メンテナンス等は電気配線等を含む、電気製品の取り扱いに習熟された方がとり行って下さい。
- ・本製品の除電電極は二股の針状でその先端は、良好な除電性能を維持するために、鋭利に尖らせております。そのため、容易に肌等に突き刺さりますので、取り扱いには十分お気をつけ下さい。
- ・本製品は適切な弊社製専用電源（パワーユニット）に接続してご使用下さい。また「仕様」の項の使用条件の範囲を越えてご使用にならないようにして下さい。
- ・本製品には、アースが必要です。アースを接続せずに本製品を使用しないで下さい。
- ・本製品の正常使用時には、一切スパーク放電は見られません。もし万が一、目に見えるスパークが通常使用状態で発生した場合は、パワーユニットの電源スイッチを切り、「保守」の項の清掃を全て行って下さい。清掃を行ってもスパークが止まらない場合は、本体の故障ですので必ず、弊社もしくは弊社代理店へご連絡下さい。保証要項に従って、点検・修理・交換をさせていただきます。
- ・本体および高電圧ケーブルを動かしながら使用しないで下さい。このような使用方法は、高電圧部の「絶縁不良」を招き、故障の原因になります。
- ・落下その他で、本製品に著しい衝撃・損傷を与えたときは、必ず点検を行って下さい。的確に動作しないとき、あるいは点検時等に異常を発見した場合には必ず、必要な修理または交換を行って下さい。
- ・本製品が異常に損傷あるいは老朽化しますと、電気ノイズの発生・高電圧部（高電圧ケーブル等）の焼損等を起こす可能性があります。この「取扱説明書」をよくお読み頂き、定期的に、的確に、保守・点検を行って下さい。
- ・本製品は、シムコジャパン株式会社において的確に組立および出荷検査されております。改造・加工および不当な分解を行わないようにして下さい。
- ・本製品について、ご不明な点やご質問がございましたら、お買い上げ頂いた販売店もしくは、弊社・「シムコジャパン株式会社」までご連絡下さい。

はじめに

このたびは、Simco-Ion 静電気除去装置 スタティックバー（除電電極）MF-4N をお買い求め頂きまして、まことにありがとうございました。

このスタティックバーだけでは静電気の除去は行えません。必ず、Simco-Ion製パワーユニットと組み合わせてご使用下さい。パワーユニット側の取扱説明書も必ずよくお読み下さい。

梱包品の確認

本装置をお受け取りになられましたら、まず初めに製品および付属品を確認して下さい。

- | | |
|------------------------------|----|
| (1) 本体 | 1本 |
| (2) 高電圧ケーブル（標準 2.5m, HVC-25） | 1本 |
| (3) 取扱説明書 / 保証書（本書） | 1冊 |

オプション

専用取付金具 MF 金具(SUS)

- 1 高電圧ケーブルは、ご注文内容(ケーブル長)により型番、仕様が異なります。

梱包品に不足品がないことおよび製品に外観異常（変形、破損等）がないことを確認して下さい。もし、不足品、外観不良品がございましたら、ただちに弊社もしくは弊社代理店までご連絡下さい。

尚、パワーユニット側の梱包 / 付属品につきましては専用の取扱説明書をご覧ください。

目次

ご使用の前に	1頁
はじめに	2頁
目次	3頁
第1章 概要	4頁
第2章 主な仕様	5頁
第3章 設置	7頁
第4章 運転要領・イオンバランス調整	12頁
第5章 保守・点検	13頁
第6章 異常時の処置・交換パーツ	16頁
外観寸法図	17頁
保証書	巻末

< 本書の記号のご説明 >

各記号は主として下記のような意味を表しています。



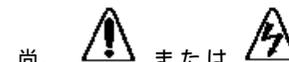
ご注意をお守りいただかないと重大な事故（死亡事故を含む）を引き起こす恐れがあります。



ご注意をお守りいただかないと装置の故障を生じる恐れがあります。また、周辺の機械・設備等に悪影響を与えることがあります。



ご注意をお守りいただかないと感電の恐れがあります。



尚、 または  に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ずご注意事項をお守り下さい。

第1章 概要

Simco-Ion スタティックバー MF - 4 Nは、Simco-Ion製パワーユニットと組み合わせて、帯電物の静電気を中和・除去するために使用される、棒状の除電電極です。それ以外の目的には使用できません。

スタティックバー MF - 4 Nは、Simco-Ion 独自の電極構造（特許第2997835号）により、高い除電性能とメンテナンスの軽減化が実現されています。また、放電電極（放電針）の材質は、ご使用による劣化・摩耗が少ないチタンを採用しています。

除電装置は定期的に放電針先端の清掃作業が必要ですが、スタティックバー MF - 4 Nは、クリーンエアをスタティックバー MF - 4 Nに供給することによって、この清掃作業の頻度を大幅に軽減することができます。また、エアの供給によって、スタティックバー MF - 4 Nの帯電物からの設置距離を大幅に伸ばすことができます。

スタティックバー MF - 4 Nは、単相交流4 kV ± 7%を必要とします。高電圧電源（パワーユニット）は、Simco-Ion製パワーユニット 47 または パワーユニット 150 をご使用下さい。このパワーユニットは、高電圧の異常検知回路が内蔵された安全設計です。高電圧異常（短絡、リーク等）が発生すれば、パワーユニットの高電圧出力を自動停止し、警報用リレー出力が作動します。この警報出力を外部表示回路等に利用して、遠隔監視することもできます。

推奨しますパワーユニットには、高電圧の異常検知回路以外に、イオンバランス調整回路も内蔵されていますので、様々な使用条件でイオンバランス調整が可能です。スタティックバー MF - 4 Nを設置後、ワーク（帯電物）の位置に合わせて、チャージプレートモニター等を利用してイオンバランス調整を行って下さい。パワーユニットの専用の取扱説明書も良くお読み下さい。

尚、パワーユニットに接続できる電極の個数等の詳細は弊社営業部までお問い合わせ下さい。

スタティックバー MF - 4 Nの主な特長は以下の通りです。

- ・ 放電針内部からエアを吹き出す、ローメンテナンスタイプ
- ・ 有効距離300mm以上の優れた除電性能
- ・ 断面18mm × 32mmのコンパクトサイズ
- ・ 絶縁が強化されたエポキシ樹脂充填タイプ
- ・ 堅牢でクリーンルーム対応のステンレスケーシング（表面バフ鏡面仕上げ）
- ・ 放電電極は標準20mmピッチ。30mmまたは40mmピッチも製造可能です。
- ・ 放電電極（エミッタ）は、チタン製を採用
- ・ 脱着式の高電圧ケーブルは高耐圧シリコンケーブル、シールドタイプ
- ・ SUS製M5スタッド2本付（溶接）/標準仕様。SUS製取付金具も用意しています。
- ・ クリーンエアはスタティックバー MF - 4 Nの左右どちらからも入力可能。
- ・ 推奨する高電圧電源はパワーユニット 47 またはパワーユニット 150 の高電圧異常検知回路およびイオンバランス調整回路付

第2章 主な仕様

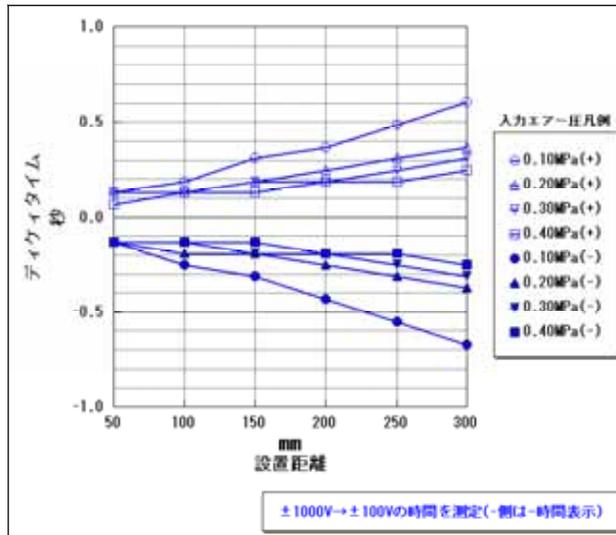
- ・ 型番； スタティックバー MF - 4 N
- ・ 種別； 交流高電圧印加式除電器
- ・ 構造； 直結型除電電極（通電中の放電電極に触れると、軽い電撃を受けます）
- ・ 定格電圧； 単相交流4 kV ± 7%
推奨パワーユニット（パワーユニット 47 / パワーユニット 150）
- ・ 使用環境； 0 ~ 40℃, 10 ~ 80% RH（但し、結露、氷結のないこと）
- ・ 装置期待寿命； 10000時間以上（約5年 / 8H / 1日, 250日 / 年）
保証期間は出荷後1年間です。
- ・ 放電電極（針）； チタン（TB35H）製（エア吹き出しタイプ）
- ・ 接地電極； ステンレスケーシング（SUS304）
- ・ 絶縁材材質； 主としてABSおよびエポキシ
- ・ 高電圧ケーブル； HVC-25: 脱着式高耐電圧シリコンケーブル 2.5m, シリコンチューブ被覆付（標準）
高電圧ケーブル末端に高電圧コネクター A3030付
- ・ エアジョイント； PP + SUS製の完全禁油型クリーンルーム用ワンタッチジョイント
外径 6mmエアチューブ適応
個数2個：左右どちらからも入力可能です。（反対側エンドプラグ付）
500mmを超えるスタティックバー MF - 4 Nは両側からエアを入れます。
- ・ サイズ； 断面サイズ18(W) × 32(H) (mm)（外觀寸法図をご参照下さい。）
- ・ 重量； バー本体 約 680g [500mmタイプ]（取付金具含まず）
高電圧ケーブル 約 200g [標準2.5mの場合]
- ・ 取付； 本体背面にM5 × 1.5 SUS製スタッド（溶接）2本付 / 標準仕様
専用金具 MF金具（オプション）
- ・ オゾン濃度； 0.01ppm以下
MF - 4 N 500mmタイプ, エア圧 0.1MPa, 前方100mmの位置で測定
測定器 DASIBI 1003AH 型オゾンモニター（紫外線吸収法）使用
- ・ 入力エア圧； 最大 0.4 MPa（約4kgf/cm²） 推奨（0.1 MPa）
- ・ エア消費量； 下表の目安データをご参照下さい。（500mmタイプの場合）
- ・ 騒音レベル；

入力エア圧(MPa)	0.1	0.2	0.3	0.4
エア流量(NL/min.)	70	100	140	170
騒音(dB-A)	55	62	66	70

クリーンドライエアもしくはN₂ガスをご使用下さい。
（結露のないようにご注意ください。）
騒音データは、バー周囲600mmの距離で測定。

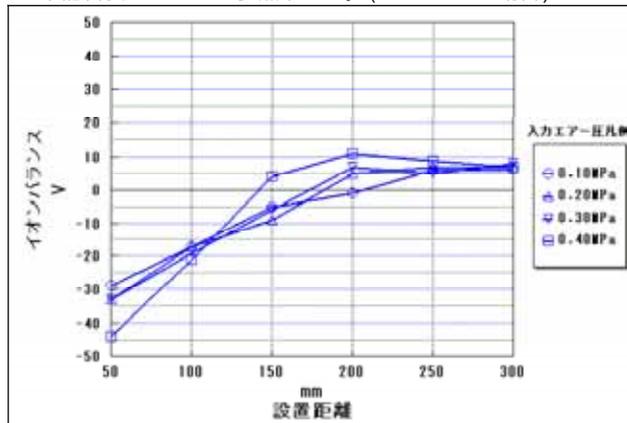
第3章 設 置

・除電性能； 下記の目安データをご参照下さい。(500mmタイプの場合)



測定条件：パワーユニット47のDC出力を250Vに固定して測定。
Simco-Ion製チャージプレートモーターEA-3にて減衰時間を測定。(静電容量約20pF)

・イオンバランス； スタティックバー MF - 4 N側にはイオンバランスの調整部はありません。
パワーユニットを弊社出荷時調整のままご使用の場合のイオンバランスデータは下記目安データをご参照下さい。(500mmタイプの場合)



測定条件：パワーユニット47のDC出力を250Vに固定して測定。
Simco-Ion製チャージプレートモーターEA-3にてイオンバランス電圧を測定。(静電容量約20pF)
イオンバランスは距離とエア流量(エア圧)に依存しますので、設置後にイオンバランスの再調整を行って下さい。

パワーユニットの仕様につきましては、専用の取扱説明書をご参照下さい。

⚠️ ⚡️ ご注意

すべての取付作業が終わるまで入力電源を入れないで下さい。

設置作業は、電気配線等を含む、電気製品の取り扱いに習熟された方がとり行って下さい。本製品は、清浄度を保証するものではありません。また、清浄な製品であることを保証していません。ご使用前にクリーン・ドライエアーを通して配管およびバー内部を洗浄してからご使用下さい。スタティックバー MF - 4 Nのケーシングおよびケーブル保護用シリコンチューブは、メタノール等で拭き上げてからクリーンルーム内等に持ち込まれることをお奨めいたします。(完全に乾燥してからご使用下さい。)

3.1 パワーユニットの設置

まず、パワーユニットを、スタティックバー MF - 4 Nの高圧ケーブルが無理なく届く範囲に取り付けて下さい。取り付け方法、場所等は、パワーユニットの専用の取扱説明書をご参照下さい。

3.2 スタティックバー MF - 4 Nの設置

3.2.1 設置場所/位置(スタティックバー MF - 4 Nの除電効果を最大限にするために)

クリーンルームまたはクリーンブース内等の清浄環境内でのご使用をお勧めします。

設置場所は、その帯電物による静電気の影響が出る直前です。

スタティックバー MF - 4 Nの放電針先端が帯電物に向くように設置して下さい。

スタティックバー MF - 4 Nは切ったり、曲げたりできません。取り付けに余裕のある場所を選択して下さい。また、高圧ケーブルを配線するスペースおよびそれをパワーユニットまで配線する経路を確保して下さい。

帯電物とスタティックバー MF - 4 Nの距離は、50 mmから300 mm程度になるようにして下さい。距離は第2章 主な仕様 除電性能の目安データをご参照下さい。短い時間で除電したい場合は、できるだけ近づけて設置して下さい。(もしくは除電したいものをスタティックバー MF - 4 Nに近づけて下さい。)供給されるエア圧が高い(エア流量が多い)ほど、また帯電物までの距離が短いほど除電に要する時間は短くなります。ただし、設置距離は50mm以下にすることはしないで下さい。

スタティックバー MF - 4 Nと帯電物の間には他のものが介在しないようにして下さい。中間に他のものがあると、帯電物に有効に到達するイオンの量が減少し、良い除電効果が発揮できません。イオン化されたクリーンエアが帯電物に直接当たるようにバーの位置を調整して下さい。

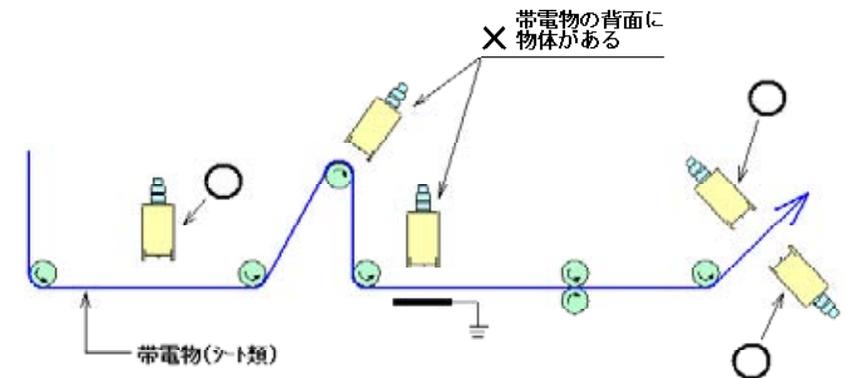


図2 スタティックバー MF - 4 Nの位置

帯電物は、他のものに触れていない（空中に浮いた）状態が最も除電しやすくなります。帯電物の背後が空間でない場合には除電効果は良くありません。スタティックバー MF - 4 Nで除電したあとも、帯電物が他のものと接触したり、摩擦したりすると再度帯電します。（スタティックバー MF - 4 Nは、帯電防止処理を行うものではありません。）

3.2.2 取付

スタティックバー MF - 4 Nの背面に出ているM5のスタッドを利用して、機械フレーム等に取り付けます。取付姿勢に制限はありませんが、バー表面に塵埃が堆積しないようにするため、放電針が下向きになるように設置されることをお勧めします。

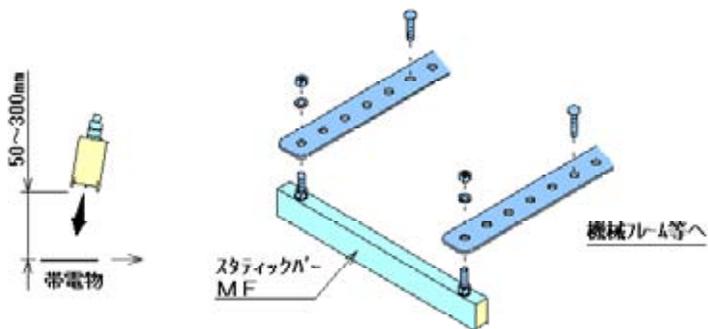


図3 スタティックバー MF - 4 Nの取り付け

⚠️ ⚡️ ご注意

放電電極は針状で、先端は鋭利に尖っており、容易に肌等に突き刺さります。取り扱いには十分注意して下さい。スタティックバー MF - 4 Nのステンレス製ケースは接地電極になります。取り付けられる機械フレーム等は、必ずアースして下さい。スタティックバー MF - 4 Nの設置後、接地電極とアースとの導通をテスターで確認して下さい。（100 以下）アースの接続が不良ですと、除電効果が無いだけでなく、危険な場合もあります。スタティックバー MF - 4 Nの放電針は、取付金具やその他のもので覆ったりしないようにご注意下さい。放電針の15mm以内に金属、その他のものがあると、スパークが発生することがあり、事故の原因となる場合があります。スタティックバー MF - 4 Nがねじれたり曲がったり、無理なテンションがかかったりしないようにして下さい。

3.3 高電圧ケーブル配線の敷設

パワーユニットまで高電圧ケーブル配線を敷設します。手順は以下に従って下さい。

3.3.1 スタティックバー MF - 4 Nからパワーユニットまでの高電圧ケーブルの配線経路を決めて下さい。

3.3.2 その経路に高電圧ケーブルを保持するために、ナイロンクリップ等を使用して下さい。高電圧ケーブルは、スタティックバー MF - 4 Nの近くおよびパワーユニットの近くで一旦固定して下さい。それ以外の場所では、通常、高電圧ケーブル約1m毎にクリップを1個使用して下さい。

⚠️ ご注意

高電圧ケーブルには寿命があります。（標準高電圧ケーブルで約10,000時間）点検・交換を考慮して高電圧ケーブルを敷設して下さい。高電圧ケーブルは、高電圧を通すための特殊な電線ですので、取り扱いには丁寧に行い、絶対に傷を入れないで下さい。極端な曲げによる折れや引っ張りによる変形等のないようにして下さい。また、水濡れや金属粉（切り粉）の付着がないように十分気を付けて下さい。高電圧ケーブルは、固定して動かさないようにしてご使用下さい。高電圧ケーブルはナイロンクリップやインシュロックタイ等の樹脂で固定して下さい。針金等の金属は絶対使用しないで下さい。高電圧ケーブルが長過ぎて配線途中で大きくなるような配線方法は避けて下さい。

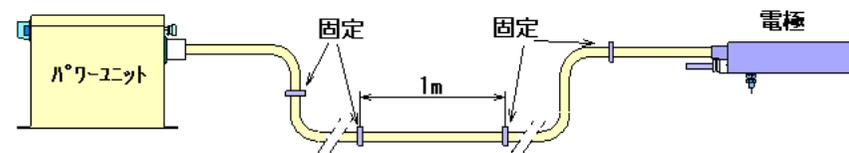


図4 高電圧ケーブルの固定

高電圧ケーブルを鋭角に曲げたり、直角に曲げたりしないで下さい。高電圧ケーブルの最少曲げ半径は内寸で約60mmです。また、尖った金属に接触したり、機械フレーム等の角に触れたままのような配線をしないで下さい。このような配線は高電圧ケーブルの絶縁を早期に劣化させ、事故の原因になることがあります。

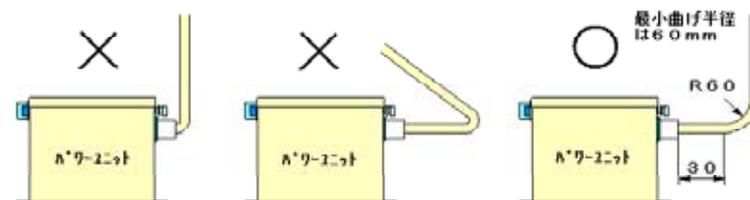


図5 高電圧ケーブルの曲げ

高電圧ケーブルに引っ張りのテンションがかかったり、荷重がかかるような配線をしないで下さい。また、機械等の可動部や摺動部に接触して、高電圧ケーブルおよびその被覆に損傷を与えるような配線をしないで下さい。

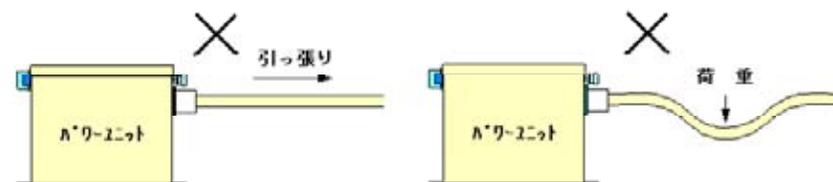


図6 高電圧ケーブルへの荷重

シールドケーブルの末端には、アース線が付いています。このアース線は必ずパワーユニットのアース端子に接続して下さい。

パワーユニットは、しっかりしたアースに、必ず接続して下さい。詳細はパワーユニットの取扱説明書を良くお読み下さい。

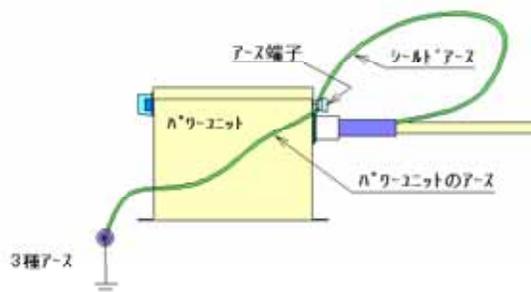


図7 シールドケーブルの接地

シールドケーブルは簡単に短くすることができません。どうしても必要なときは弊社または弊社代理店までご連絡下さい。

3.4 高電圧ケーブルとスタティックバー MF - 4 Nの接続

高電圧ケーブル末端の樹脂部の付いている側をスタティックバー MF - 4 Nに接続します。

丸いステンレスのロックナットを指先で持ち、バーの末端に差し込みます。しっかり奥まで差し込みましたら、ロックナットを回して固定して下さい。

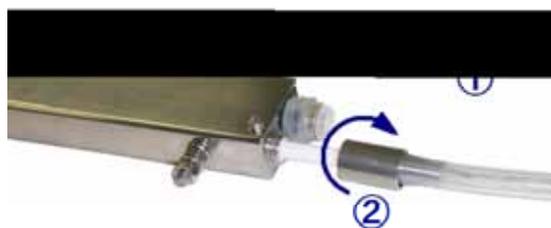


図8 ケーブルの接続

工具は使用せずに、手でしっかり止まるまで回して固定して下さい。締めにくい場合、あるいはケーブルが共回りしてねじれる場合は、バーの固定ネジを一旦取り外して、バーの方を回転させてしっかり締めて下さい。ケーブルは、ねじれを直してからナイロンクリップ等で固定して下さい。



図9 ケーブルのよじれ直し

3.5 高電圧ケーブルとパワーユニットの接続

高電圧ケーブルHVC - 25の反対側の末端には、標準で高電圧コネクターA3030が付けられています。末端がスプリングになったこのコネクターは、パワーユニットの出力端子に手でねじ込むだけで接続できます。パワーユニット側の取扱説明書もご参照下さい。高電圧ケーブル末端のシールドアースをパワーユニットのアース端子に固定して下さい。

⚠️ ⚡️ ご注意

設置後、すべてのバーの接地電極とパワーユニットのアース端子との導通をテスターで確認して下さい。(100以下) 抵抗値が高い場合は、ロックナットを増し締めして下さい。

3.6 エア配管の接続

スタティックバー MF - 4 Nには、クリーンなエアを供給する必要があります。

外径 6mmのシンフレックスチューブをスタティックバー MF - 4 Nに付属しているワンタッチジョイントに接続し、的確にエアを供給できるようにして下さい。エアは左右どちら側からでも入力できます。

500mm以下の長さのスタティックバー MF - 4 Nの場合は、エアは片側入力にして、反対側のエアジョイントには付属のエンドプラグを付けて下さい。500mmを超える長さのMF - 4 Nの場合にはエアは両端から入れて下さい。(この場合エンドプラグは付属しません。)

通常、供給エア圧は、0.1 MPa (約 1 kgf/cm²) 程度をお勧めします。最高入力エア圧は 0.4 MPa です。

エア配管はできるだけ短くして下さい。配管が長く圧損が多い場合には、スタティックバー MF - 4 Nに供給されるエア量が少なくなり、除電性能が低下します。

必要に応じて、フィルター、ミストセパレーター、レギュレーター、流量計、ソレノイドバルブ等をご使用下さい。(付属品ではありません。)

第4章 運転要領・イオンバランス調整

スタティックバー MF - 4 Nの作動/停止の操作は、パワーユニット側で行います。運転操作の前に、パワーユニットの専用の取扱説明書を良くお読み下さい。

4.1 運転開始

- 1) クリーンエアーを供給します。
- 2) パワーユニットの電源スイッチをONにして下さい。
- 3) すぐに除電が始まります。

4.2 運転終了

- 1) パワーユニットの電源スイッチをOFFにして下さい。
- 2) 除電は停止します。
- 3) エアーの供給を停止して下さい。

本装置をご使用にならないときは必ず電源をOFFにして下さい。

4.3 イオンバランス調整

スタティックバー MF - 4 Nのイオンバランス調整はパワーユニット側で行います。パワーユニットの取扱説明書も必ずよくお読み下さい。(推奨高電圧電源 パワーユニット 47 またはパワーユニット 150)

<調整手順>

- 1) チャージプレートモニターを用意します。
- 2) スタティックバー MF - 4 Nの放電針側で、帯電物が通常通過する位置にチャージプレートモニターを設置し、イオンバランス測定モードにします。チャージプレートモニターは0V調整を必ず行って下さい。
- 3) スタティックバー MF - 4 Nを通常使用する条件(エアー圧、エアー流量)で稼働させます。
- 4) パワーユニットのイオンバランス調整ボリュームを回し、チャージプレートモニターの表示電位が0V付近になるように調整します。
- 5) イオンバランス調整が終了しましたら、チャージプレートモニターをディケイタイム測定モードにして、除電性能を測定・記録されることをお奨めします。

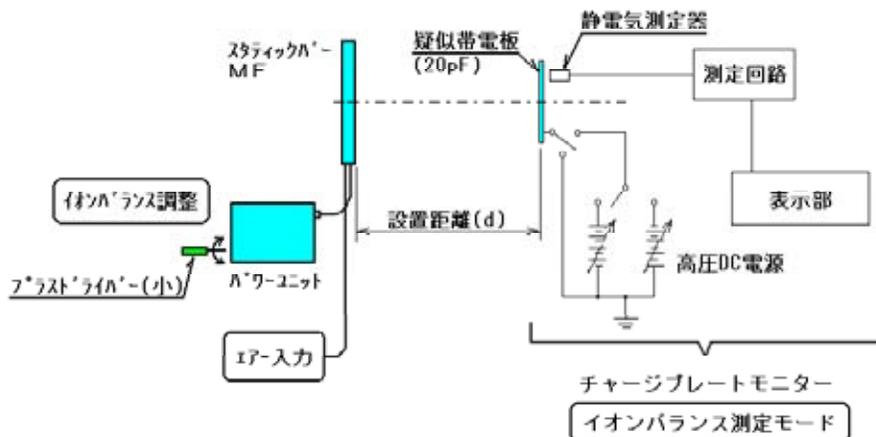


図12 イオンバランスの調整方法

第5章 保守・点検

⚠️ ご注意

スタティックバー MF - 4 Nは、高電圧を使用する特殊な電気製品で、消耗品です。メンテナンスを怠ると、除電性能が十分発揮されません。また、メンテナンスを怠ると焼損等の思わぬ事故が発生する恐れがあります。

5.1 スタティックバー MF - 4 Nの清掃

⚠️ ⚡️ ご注意

清掃時には、必ずパワーユニットの電源をOFFにして下さい。
針状の除電電極の先端は、良好な除電性能を維持するために、鋭利に尖らせています。そのため、容易に肌等に突き刺さりますので、取り扱いには十分お気をつけ下さい。

- 金属ブラシ(ワイヤーブラシ)は絶対に使用しないで下さい。
- 水、シンナー等の溶剤、市販のクリーナー等は絶対に使用しないで下さい。
- メタノールまたはIPAを、スタティックバー MF - 4 Nに直接ふりかけるようなことは、絶対にお止め下さい。
- アルコール類を使用した場合は、スタティックバー MF - 4 Nが完全に乾燥するまでパワーユニットの電源をONにしないで下さい。

5.1.1 放電針とケースの清掃

放電針の先端に汚れが付着したままの状態ですと除電効果が十分発揮できません。放電針およびその周りの接地電極(ステンレスケース)は、ご使用とともに白い堆積物が付着する場合があります。(クリーンルーム内でのご使用の場合)

定期的に汚れをナイロンブラシまたはきれいな無塵ウェスで取り除いて下さい。

⚠️ ご注意

エアーを0.1MPa(約1kgf/cm²)程度出しながら、清掃作業を行なって下さい。エアーを供給していないと放電針に付いている穴が詰まってしまう場合があります。

5.1.2 落ちにくい汚れの除去

スタティックバー MF - 4 Nの絶縁材(ABSまたはエポキシ)の部分に、落ちにくい汚れ等が付着した場合の除去には、純粋なメタノールまたは純粋なIPA(イソプロピルアルコール)をきれいなウェスに少量付けて軽く絞ったものをご使用下さい。

5.2 高電圧ケーブルの保守(外観異常のチェック)

高電圧ケーブルとスタティックバー MF - 4 Nとの接続部にゆるみがないかどうか定期的に点検して下さい。

定期的に高電圧ケーブルの外観を目視検査して下さい。もし、高電圧ケーブルを保護しているシリコンチューブが著しく変色していたり、傷等が入っていたり、その内部の高電圧ケーブルまでもが傷んでいるかどうかを確認して下さい。(高電圧ケーブル自体が傷んでいる場合には、除電が行えません。)

高電圧ケーブル自体に傷みがない場合は、シリコンチューブを絶縁テープで補強して下さい。また、高電圧ケーブルが水や油等で汚れている場合は、布等で拭き取って下さい。

高電圧ケーブル自体が傷んでいる場合は、修理・交換等の処置が必要ですので弊社営業部までご連絡下さい。

⚠️ ⚡️ ご注意

高電圧ケーブルの修理・手直しの際は、必ずパワーユニットの電源をOFFにして下さい。

5.3 日常点検

5.3.1 目視点検

スタティックバー MF - 4 Nの放電針が曲がったり、大きく変形したりしていないかをチェックして下さい。このような状態のスタティックバー MF - 4 Nは交換する必要があります。

5.3.2 スパークテスト

⚠️ 警告

この作動チェックの方法は、小さな火花と電気ノイズを伴います。周囲に可燃性ガス、可燃性粉塵等がないことを再確認して下さい。

<テスト手順>

- (1) 絶縁部分のある、小さな金属製のマイナスドライバーを用意して下さい。
- (2) 運転状態で、スタティックバー MF - 4 Nの接地電極（ケース）にドライバーの金属シャフトを接触させながら、そのドライバーの鋭利な先端を放電針に近づけて下さい。必ずドライバーの絶縁部分を持って行って下さい。

約3～5 mmのスパークが発生すれば、スタティックバー MF - 4 Nは正常です。

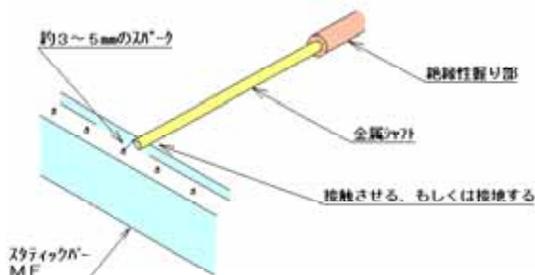


図13 スパークテスト

⚠️ ご注意

ノイズによって誤動作等の影響の出るおそれのある機器は、電源を必ずOFFにして下さい。

- このスパークテストの際に、パワーユニットがスパークを検知して自動停止する場合があります。この場合は、それ以上スパークを観測することはできません。パワーユニットは、一定時間以上のスパークが継続すると異常検知回路が働いて、高電圧出力をOFFにします。電源スイッチを一旦OFFにし、3秒後以降に再度ONにすれば、復帰します。
- この簡単なチェックを行わずに、故障したまま連続通電致しますと、高電圧ケーブルの焼損等の思わぬ事故が発生する場合があります。定期的にこのチェックを行って下さい。
- スパークの発生がない場合は、入力電圧、電源スイッチ、アース、高電圧ケーブルの接続部等の確認をまず行って下さい。

これらが正常な場合は、スタティックバー MF - 4 Nの清掃を行って下さい。清掃行ってもスパークテストで正常にならない場合は、次項の点検を行った上、弊社営業部へご連絡下さい。

5.4 定期点検

⚠️ ⚡️ ご注意

定期点検は、適格な電気技術者が行って下さい。

5.4.1 アースの点検

スタティックバー MF - 4 Nの接地電極（ケース）およびシールドケーブルのシールド外皮と機械フレーム等のアース間の抵抗をテスターで、定期的に測定して下さい。

それぞれの測定値が100以下であればアースは正常です。

5.4.2 除電性能のチェック

スタティックバー MF - 4 Nで、帯電物が的確に除電できているかどうかを定期的に確認して下さい。チャージプレートモニターを使用して、定期的に除電性能（ディケイタイム）を測定し、除電装置を数値管理することをお奨めします。

ここでは、簡単に除電効果を確認する方法をご説明します。

- a) 静電気測定器(Simco-Ion製 FMX-003)を用いて、帯電物の帯電電圧を測定します。
- b) スタティックバー MF - 4 Nを移動させ、帯電物を除電します。
- c) 再度、静電気測定器で帯電物の帯電電圧を測定します。

帯電物が的確に除電されていれば、スタティックバー MF - 4 Nおよびパワーユニットは正常です。

ただし、スタティックバー MF - 4 Nの除電エリアに帯電物を近づけなければ帯電電圧がほとんど下がらないことを確認しておいて下さい。

5.4.3 絶縁抵抗測定

「スパークテスト」「除電性能のチェック」で「正常」でなければ、下記の抵抗測定を行って下さい。

測定箇所	使用機器	合否判定と処置
高電圧ケーブル末端 接地電極	DC1000V メガー	1G 以上は、正常
高電圧ケーブル末端 アース間		1G ~100M は、MF - 4 Nを清掃
放電針 アース間		100M 以下は、MF - 4 Nを交換

⚠️ ⚡️ ご注意

- 抵抗測定を行うときは、高電圧ケーブルをパワーユニットから必ず抜いて下さい。高電圧ケーブル側の測定端子接触箇所は、その高電圧ケーブルの末端のコネクター（高電圧コネクターA3030のスプリング）です。
- 清掃しても測定結果の抵抗値が正常値にならない場合は、早い時期にスタティックバー MF - 4 Nを交換して下さい。「交換」の判定結果の場合は、使用を即時停止して下さい。
- スタティックバー MF - 4 Nの測定値が「正常」であるのに、「スパークテスト」「除電性能のチェック」で「正常」にならない場合は、パワーユニットの故障の可能性があります。パワーユニット側の「取扱説明書」記載の「点検」等も合わせて行って下さい。
- 抵抗測定の結果のいかんにかかわらず、放電針の定期清掃は必要です。

保証書

全ての弊社製品は「性能」およびその他の出荷検査をした後出荷されておりますが、正常な使用状態において万一故障が発生しました時には、下記の条件にて保証されております。

〔保証期間〕

弊社出荷日より1年間

〔保証内容〕

取扱説明書等の注意書に基づく正常なご使用状態のもとで、製造上の責任による故障が、保証期間内に万一生じた場合、無償にて修理または新品あるいは同等品と交換させていただきます。

なお、修理、交換は本Simco-Ion製品のみに限らせて頂きます。本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については当社はその責を負わないものとします。

⚠️ ご注意

- ご使用前に必ず「取扱説明書」をお読み下さい。
- 次のような場合は、保証期間中でも修理・調整等は、有償になりますのでご注意下さい。

保証書のご提示がない場合。

落下その他の衝撃を加えられたり、お取り扱いが適切でないために生じた故障、損傷の場合。

お客様による分解、不当な改造、修理による故障および損傷。

火災、天災地変、あるいは異常入力電圧、水、蒸気、油、酸等の外部要因に起因する故障、損傷の場合。
その他、その責が当社にないと判断された場合。

製品名	Simco-Ion 静電気除去装置 スタティックバー MF - 4N		
出荷年月日	弊社では製品シリアルナンバーにて出荷日の管理をおこなっております。	保証期間	出荷日より1年間

シムコジャパン株式会社

本社 〒650-0046 神戸市中央区港島中町1丁目2番4号 TEL.078-303-4651



静電気のスペシャリスト シムコジャパン株式会社

本社 神戸市中央区港島中町1-2-4
〒650-0046 TEL.078-303-4651 FAX.078-303-4655

神戸営業所 神戸市中央区港島中町1-2-4
〒650-0046 TEL.078-303-4651 FAX.078-303-4655
東京営業所 東京都墨田区両国1-3-8 西川ビル
〒130-0026 TEL.03-3635-7261 FAX.03-3635-7189
仙台営業所 仙台市若林区六丁の目中町18-15
〒984-0012 斎喜六丁の目ビル

九州営業所 福岡県福岡市博多区東比恵2丁目2-40
〒812-0007 コロナ福岡ビル 3階
TEL.092-409-4684 FAX.082-409-4694

ホームページ: <http://www.simcoion.jp/>
お問い合わせ: info@simcoion.jp